

## 2026年度入試 文学研究科

### 解答又は解答例及び出題意図

課程	博士課程前期
実施期	Ⅱ期
科目名	社会心理学・コミュニケーション学
	解答又は解答例 及び出題意図
[I]	<p>[1] 次の設問のうちから1つを選択して、これまでの先行研究に言及しながら論述しなさい。</p> <p>1. 「メディアとしてのラジオ」をテーマとして、社会学、社会心理学、コミュニケーション学のいずれかにもとづいた研究計画を構想しなさい。なお、研究計画には、研究の背景、研究の中核となる問い、既存の研究の文脈、対象と方法、仮説などについて、具体的に詳述すること。</p> <p>〔解答のポイント〕</p> <p>「メディアとしてのラジオ」をテーマとして、自由に問い、対象、方法を設定することで、自らがこれまで学んできたことを示す。たとえば、ラジオそのものを対象とした先行研究だけでなく、マスコミュニケーション研究の草創期などの先行研究にも言及することができる。また、テーマを現代社会に設定する場合、SNS やテレビといった他のメディアとの関係が重要であり、参加文化といった文脈でのフォーカスも可能であろう。研究の方法は、質問紙調査、面接法、資料を用いた研究が考えられるが、それらの使い分けや組み合わせを説得的に論じること。いずれの場合も、問いを明確にし、仮説と実現可能な検証方法を書いてもらいたい。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>自由に研究計画を構想することで、問題意識、問いの立て方、既存の研究の文脈についての知識を問う。また、具体的な対象を設定し、説得的な仮説を展開できるか、検証のために必要な手続きを詳述できるかを問うた。</p>

2. 単純接触効果が生じる理由について、処理流暢性と誤帰属の観点から、具体的な例をあげて論述しなさい。例は架空のものでもかまいません。

〔解答のポイント〕

単純接触効果が生じる理由については複数の説があるが、有力とされているのは処理流暢性と御帰属によるものである。刺激に対して繰り返し接触すると、その刺激の処理が流暢に行われるようになる。処理が流暢であることは親近性を生じる。その結果として、刺激に対する好意が増す。つまり、実際には効率よく処理できるようになったがゆえに親近性が感じられているにもかかわらず、親近性が生じるのは自分がその刺激を好きだからであると誤って原因を帰属する。このメカニズムを理解していることが解答のポイントとなる。なお、好意の誤帰属ではなく有名性の誤帰属(誤有名性効果)を取り上げた場合も、このメカニズムを理解していればよい。

〔出題意図〕

単純接触効果の研究は Zajonc による 1960 年代の研究まで遡る。当初は、文字風の刺激や人物の写真等についてこの効果の存在が確認されていたが、その後、視覚的な刺激に限らず様々な知覚の刺激に対してこの効果が生じることが確認されるようになった。メディア環境の変化の著しい今日でも、この効果は様々な対象に対して生じていると考えられる。そこで本問では、適用範囲の広さも含めて、この効果に関する理解を問うこととした。

[2] 次の事項の中から2つを選択し、説明しなさい。その際、その事項の学問的・社会的背景についても説明すること。

〔2〕

1. フィルター・バブル
2. 手続き的公正
3. 人新世
4. 自己評価維持モデル
5. クロード・シャノン
6. 集団主義
7. 複製技術時代の芸術作品
8. 反実仮想的思考
9. 郊外
10. ブレーン・ストーミング

〔解答のポイント〕 1～10 共通

専門用語や重要事項を正しく理解していること、それらを取り上げられるようになった背景も把握していること等が、解答の際のポイントとなる。

〔出題意図〕 1～10 共通

社会科学の基礎知識を問うものである。